

日本語ボランティア講座（摂南大学教授 門脇 薫氏）

第2回「中級レベルの教え方」のまとめ

はじめに： 前回の重要ポイントをもう一度

* 「やさしい日本語」の必要性

- ・ 日本語マイノリティ（弱者の方：外国人 non-native speaker, 子どもも年寄りも入るかも）は上級レベルになるまでに相当の努力が要る。日本人がやさしい日本語で言ってあげる方がはるかに簡単で労力も少ない。日本人側がやさしい日本語を使えるよう学ぶべきである。
- ・ 寝屋川の市役所のホームページには、英語・韓国語・中国語の翻訳以外に「やさしいにほんご」「romaji」というタブがあり、ローマ字やさしい日本語で書かれている。やさしい日本語のページには、ふりがながふってあったり、言葉を言い換えたりしている。茨木市にはない。茨木市の日本語ボランティア講座で日ごろ外国人と接する日本人ボランティアの皆さんが、外国人の方々への情報提供としてやさしい日本語とローマ字版の必要性を、茨木市にぜひ言ってほしい。声を上げる必要があるのではないかな。



* 自己研修型教師は最近の社会の流れを知って、学習者に応じた学習方法を考え、またどう勉強したらいいか考えることのできる自律した学習者を育てることをめざすべき。

ボラ友との学びが大事。 (=ボランティアの仲間同志)

1. 中級レベルとは

* 日本語教育におけるレベル「新版日本語教育事典」（2005）の定義

	初級	中級	上級
学習時間	300	600	900
語彙	1500～2000	5000～7000	7000
漢字	500	1000～1500	2000～2500

*注：学習時間は授業時間で自宅学習は含まない。

「みんなの日本語初級Ⅰ」は150時間で終わるようにできている。

ⅠとⅡで300h

* 中級レベルの特徴

- ・ 中級レベルの範囲が広く、学習者のニーズも幅広い。
⇒教材はニーズに合わせて選ぶようになる。
- ・ 授業科目が細分化される。
初級は総合教科書をティームティーチングで教えることが多い。
中級クラスは文法、漢字、読解、作文、会話、ビジネス日本語等、教材も目的別、技能別で生教材（教師がリライトすることもある）も使われるようになる。
- ・ 書き言葉の語彙や表現が出てくる。
例）読解と作文を組み合わせた授業
- ・ 新出の文型は初級ほど多くはない。
提出順序も決まっていない。
文型積み上げ式ではない。
- ・ 初級レベルのときと比べて学習者は学習の進歩の実感が得られにくい。
(学習の幅が広いので)

等々

2. 課題（タスク）遂行を中心とした能力基準

- ・ヨーロッパ共通参照枠 (CEFR) -- EU になって人が移動するようになって外国語能力を示さないといけなくなった。

(CEFR: Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment)

- ・全米外国語教育協会 (ACTFL: American Council on the Teaching of Languages)

口頭表現能力テスト (OPI: Oral Proficiency Interview)

インタビューをして初級の上とか、中級の下 のようにレベルを判定

試験官のマニュアルには、運用能力レベルは超級、上級、中級、初級に分かれており、総合タスクと機能の内容の基準、場面や話題の基準、正確さを判断する基準等が示されている。(⇒詳しくは門脇先生が配付されたプリントの1ページ参照)

- ・JF 日本語教育スタンダード 2010 (JF=Japan Foundation) 国際交流基金が日本語のスタンダードを作ろうとしてできた。
- ・日本語能力試験

- ・一般的には初級、中級、上級のレベルを判断する概念的な要素を挙げると

レベル	初級 (基礎的な段階)	中級 (自立した段階)	上級 (熟達した段階)
話題・場面	基本的、日常的 個人的、具体的	やや抽象的、 一般的、公的	専門的、抽象的 複雑な状況

(⇒さらに具体的な要素については門脇先生が配付されたプリント参照)

◎目標言語 (日本語) を使って課題 (タスク) を遂行する。

何ができるか (Can-do statement / Can-do 評価) であり、文型ありきではない。

3. 最近の外国語教育の動向

*キーワードは わかる・できる・つながる

「外国語学習のめやす」国際文化フォーラム

(ホームページに外国語教師による実践例紹介)

- ・外国語教育を通してグローバル人材の育成
総合コミュニケーション能力
批判的思考・問題解決・協働 (チームワーク)・IT 技術 等
- ・プロジェクトワーク (活動) 型

最近の教授法の例: ソーシャル・ネットワーキング・アプローチ (當作 2013)

4. 外国語教授法の流れ 村上 (2018) 「SNS で外国語を学習する冒険型メソッド」より

- ・文法翻訳法=伝統的、読んで訳して、単語調べて覚える。 ⇒ わかる
今でも実践されている教授法
- ・オーディオ リンガル メソッド (口頭練習) ⇒ 言える
文型練習・ドリル ⇒例) 「みんなの日本語」
- ・コミュニケーション型 アプローチ ⇒ 話せる
(ヨーロッパで 1970 年代、日本は 80 年代から実践されるようになった)
タスク・コミュニケーションの練習の場
(タスクとは、「図書館で本を借りる」「友達に本を貸してと依頼する」など)
- ・ソーシャル・ネットワーキング・アプローチ ⇒ つながる
授業が実際のコミュニケーションの場
実践例: 自分たちの市の案内パンフレットを作るそのために、インタビューを

してきて、まとめる など。

日本の中学生のクラスとオーストラリアの小学校のクラスをスカイプでつないで交流授業をする など。

*教授法の流れを頭に入れておいて、活動の参考にする。茨木市実用日本語学習会は1対1の個人指導の形式なので色々な活動が可能である。

5. 具体的な活動のデザイン

*学んだ日本語を使うための活動

ロールプレイ ①文型先行型 一習った文型を使うために状況と役割を提示する。

②タスク先行型一言語を使ってタスクを遂行する。例えば図書館で本が借りられる 等

実践例) 会社員、個人指導に

自宅学習が無理な忙しい人が短期間で実際練習をする時に使った。

当時はカセットテープで (今はスマホのボイスレコーダー) その場の会話を録音して、後で再生して誤用を訂正しながら表現を教えたり、ポイントを説明したりした。

ロールプレイに特化した教材例 :

① 「新版 ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語」

② 「会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ」(スリーエーネットワーク)

② のテキストよりロールプレイ課題の実際例 :

目的 : 身近な人に依頼ができるか

ロールカード A (留学生用) 最近日本語の勉強のために日本の歌をよく聴いていて、特にポップスが好きになったが、辞書で調べても分からないことが時々ある。先生に都合を聞きながら、日本語の歌の歌詞の意味を教えてもらって下さいという内容

ロールカード B (先生用) 毎日授業の準備で忙しいが、今日は時間がある。学生の希望や頼みをよく聞いて下さいという内容

依頼をするときの流れ

1. ちょっとよろしいですか。(前置き)

2. ————なので、教えて頂けませんか。(教えて頂きたいんですが)(状況)

3. お忙しいところすみません。ありがとうございました。(しめくり)

*専門用語で言うと、「談話」ができるか

= (ディスコース) 前置き⇒状況⇒しめくり

ドリルだけでは身につかない。オーディオ・リンガル・メソッドの批判があり、「新日本語の基礎」(みんなの前身となった教科書)に練習Cができた。

(練習A、Bはドリル)

習った表現を使ってタスクを達成する。

6. 教える側のポイントを簡単にまとめると

*内容重視 =トピック中心

*4技能統合型

読む・聞く(インプット)⇒話す・書く(アウトプット)日本語が使えることを意識

*素材・リソース(資源)の使用

1) リソースの種類: ヒト、モノ、コト

ヒト — 支援者その人、ボラ友

モノ — チラシ、映画、ドラマ、商品の袋の説明、料理のレシピ等

コト — スピーチコンテスト等の行事

2) どのように使うか ⇒ テキストを使用した指導の合間に入れたり

3) リソースを広く浅く知る

- ・「にほんご e な」(国際交流基金のサイト)には教師用の「て形の歌」が載っている。
- ・ You-Tube で検索すると、「て形」の教え方の動画もあったり
- 「日本語教育のミカタ」(荒川洋平著)の出版社のサイトで教授法の動画が見られる。
- ・「日本語教え方のコツ」「はじめての日本語」授業場面を撮影したDVD
- ・日本語を使う「活動」中心のネタ集出版されている。
- ・教科書の使用を否定する訳ではないが、今の若者の言語学習観は昔の教育を受けた私たちと全然違う。

*楽しく教える—学習者の動機づけが大事—言いたいこと言えたという満足感

7. 教材用の出版物紹介 (門脇先生が沢山持って来られ、ペア・グループで教材分析。 その中から何冊か紹介)

- 「イラストでわかる日本語表現 中級」(図書刊行会)
- 「日本語文型どんどん使えるトレーニング中級」(凡人社)
- 「会話に挑戦 中級前期からの日本語ロールプレイ」(上記参照)
- 「ポップカルチャーNEW&OLD」(くろしお出版)
- 「外国人のための会話で学ぼう! 介護の日本語」(中央法規)
- 「留学生の見た漢字の世界」(春風社)
- 「日本で生活する外国人のためのいろんな書類の書き方」

等々

以上

[文責: Y. O. (実用日本語学習会)]

